



校長室の窓



令和8年1月27日

学校だより第10号より

～「遊び」と「学び」がつながる 月立クエストの取組～

新しい年を迎えました。寒さの厳しい日が続いていますが、子供たちは毎日元気に学校生活を送っています。寒風の中でも、自主的に校庭を走る子供たちの姿が、日常の風景となっています。

本校では、昨年11月から「月立クエスト」と名付けた体力向上イベントに、全校児童が取り組んできました。きっかけは、6年生が国語科で行ったプレゼンテーションの学習でした。学習の中で、6年生は自分たちの体力の実態に目を向け、「自分たちの体力を高めたい」という課題を自分事として捉えるようになりました。

そこで6年生は、段階的な課題を一つずつ楽しみながらクリアしていく「月立クエスト」を企画しました。校長に説明して許可を得た後、朝会で下級生に参加を呼びかけ、掲示物やワークシート、スタンプなども自分たちで準備しました。そして、率先して休み時間に外に出て体を動かす姿を見せてくれました。

その姿に促されるように、下級生も自然と外に出て体を動かすようになりました。年が明けた1月に入っても取組は続き、日常の中にしっかりと根付いています。この活動は、教職員の支援と協力があってこそ成り立っていますが、その土台の上で、子供たちが自分たちで考え、行動する経験を重ね、達成感を味わっている姿に確かな成長を感じます。

これまで学校では、「遊び」と「学び」を区別して捉える傾向がありました。しかし、文部科学省における新しい学力観への議論では、子供が主体的に関わり、夢中になって取り組む過程そのものの大切さが示されています。学習の目的も、知識を身に付けることにとどまらず、日々の生活をより豊かにしていく力を育むことへと広がってきています。

「月立クエスト」は、こうした考え方を形にした取組の一つです。日々の活動は遊びの延長ですが、取組全体を通してみると、子供たちは目的を持ち、考え、行動する中で、自然と学びを深めてきました。夢中で活動してきたその過程こそが、「生きた学び」の姿だと感じています。

本年も、子供たちの思いや気付きに耳を傾けながら、日々の教育活動を大切に積み重ねてまいります。